

# 中国産陶磁器で見つかった「パスパ文字」

しん ざと むらひがし

わたんじ むら

出土地：竹富島新里村東遺跡・那覇市渡地村跡

今回のまいコレは、1272年に中国元王朝の5代皇帝（世祖）フビライ・ハンが公用文字として採用した『パスパ文字』の印を押した褐釉陶器壺と青磁皿を紹介します。

竹富島新里村東遺跡出土の褐釉陶器壺の『パスパ文字』は、上位右側の字を i ではなく、上位左側の y の字と重なった m ではないかと推定しました。下位の字は zi です。パスパ文字には母音 a を表わす専用の文字がなく、無い場合は母音 a で補うので、上位右側の字 m に母音 a を補って ma と判読しました。上下二字を組み合わせて mazi となります。この読みに漢字に充てると「碼 (ma)」(①字柄を数える。②積み重ねる。)、 「子 (zi)」(①植物の種。②銅銭。) となります。「碼子」は、数を表す数量です。パスパ文字の上位左側の字が、筆記体の「y」の字となっていることから類例を捜すと、なんとウイグル文字の ch であることが判りました。ウイグル文字も、パスパ文字と同じように母音 a を表わす専用の文字が無いので、母音 a で補うと cha となります。cha と言えば「茶」の字が充てられます。以上のパスパ文字の m の字にウイグル文字の y の字を重ねた文字表記であったと考えられたことから「chamazi」、「茶碼子」と判読しました。「茶碼子」は、体積・容量の場合は茶一斗 (9.488 斗) 分、質量の場合は茶一鈞 (17.9 kg) 分を指します。この捺印された褐釉陶器壺は、13世紀後半頃に中国との交易で、茶葉が充填された状態で竹富島へ持ち込まれました。そのことから、集落での喫茶が芽生えていたことがわかります。

もう一つの青磁稜花皿 (15世紀後半～16世紀) は、琉球王国の貿易港 (那覇港) の北岸に位置する渡地村跡から出土し、内面にパスパ文字が印刻されています。読みは guang で、漢字を充てると「光」か「廣」になります。仮に「光」の字を充てると、光り輝き (光り輝く。光輝。光彩。光沢。など) のある青磁皿という解釈となります。商品価値を高める意味合いで明代に入って元王朝が使用したパスパ文字の「光 (guang)」を印を押したものと理解されます。新里村東遺跡や渡地村跡の陶磁器に残されたパスパ文字の事例からすると商品名、数量、商品価値などを表示する目的で印刻がなされたものとして考えられます。